

関係各位

全4枚

2023年3月29日

## 訃報

劇団民藝代表の俳優・奈良岡朋子（ならおか・ともこ、本名同じ）が、去る3月23日（木）22時50分、肺炎のため東京都内の病院で逝去いたしました。93歳でした。

生前のご厚誼を深謝し、謹んでお知らせ致します。

葬儀は近親者のみで3月26日（日）に執り行いました。喪主は姪（実兄の長女）で劇団民藝演出家の丹野郁弓（たんの・いくみ）。

誠に勝手ながら、御香典、御供花の儀は辞退申し上げます。

また、故人の遺志によりお別れの会等はおこないません。

お問い合わせは下記、劇団民藝へお願い致します。

別紙にて、奈良岡朋子の略歴、奈良岡と丹野郁弓のコメントをお送りいたします。

※写真・資料をご希望の方は下記アドレス（gigafile）よりダウンロードしていただけますのでご利用ください。

<https://x.gd/fkKLZ>

◎本日より4月5日（水）までの期間限定で、約10分間のドキュメンタリー「ある女優・奈良岡朋子」（2022年製作）を劇団民藝 YouTube チャンネルにて公開致します。

<https://youtu.be/DPERsCEFHM>

劇団民藝

〒215-0035 神奈川県川崎市麻生区黒川 649-1

電話：044（987）7711／FAX：044（986）0034

[seisaku@gekidanmingei.co.jp](mailto:seisaku@gekidanmingei.co.jp) （劇団民藝制作部）

[zenta@gekidanmingei.co.jp](mailto:zenta@gekidanmingei.co.jp) （制作部稲谷）

## 奈良岡朋子 略歴

1929年12月1日東京生まれ。父は洋画家・奈良岡正夫。女子美術専門学校（現・女子美術大学）在学中の1948年に民衆芸術劇場（第一次民藝、49年7月に解散）の研究生となる。初舞台は48年『女子寮記』寮生。50年劇団民藝の創立に研究生として参加、創立公演『かもめ』ではニーナ役を演じる。

劇団民藝での出演は7,000ステージを超える。

2000年には劇団代表であった滝沢修の逝去により同期生であった大滝秀治とともに共同代表となり、2012年10月からは代表を一人でつとめた。

主な舞台は、木下順二作『山脈』よし江、チャーホフ作『かもめ』ニーナ、マーシャ、ウィリアムズ作『ガラスの動物園』ローラ、マリューギン作『思い出のチャーホフ』クニツペル、アルブゾフ作『イルクーツク物語』ワーリャ、ミラー作『るつぼ』エリザベス、『セールスマンの死』リンダ、ギブスン作『奇蹟の人』サリバン、ゴーリキー作『どん底』ワシリーサ、斎藤憐作『グレイ クリスマス』五篠華子、小幡欣治作『根岸庵律女』正岡律、チャーホフ作『桜の園』ラネーフスカヤ、小幡欣治作『浅草物語』鏑木りん、他多数。

近年の舞台は、久保栄作『火山灰地』駒井ツタ（05）、劇団民藝+無名塾公演のA・ウーリー作『ドライビング・ミス・デイジー』デイジー・ワーサン（05～08、全国で315回）、D・ヘア作『エイミーズ・ビュー』エズミ・アレン（06～09）、小幡欣治作『喜劇の殿さん』みやこ蝶々（06）、『坐漁荘の人びと』片品つる（07）、『神戸北ホテル』大関うらら（09～10）、小山祐士作『十二月』九城扶可子（10～11）、畑澤聖悟作『カミサマの恋』遠藤道子（11～13）、『満天の桜』松島（12）、D・ベリー作『八月の鯨』リビー（13～14）、H・フート作『バウンティフルへの旅』ワッツ夫人（14～16）、小幡欣治作『根岸庵律女』正岡八重（15）など。

2016年はT・ウィリアムズ作『二人だけの芝居 ークレアとフェリースー』で岡本健一と共演し、『バウンティフルへの旅』で九州を巡演、2017年12月には青木笙子原案、長田育恵作、丹野郁弓演出の東京公演『「仕事クラブ」の女優たち』に出演した。

外部の舞台では74年に日生劇場『遙かなるわが町』、75年に新劇合同公演『華岡青洲の妻』、81年から2006年まで『放浪記』に日夏京子役で出演（797回）した。

晩年のライフワークとなったひとり語りの舞台『黒い雨 ～八月六日広島にて、矢須子～』（井伏鱒二原作、笹部博司上演台本、丹野郁弓演出）は2013年初演から2020年までに全国各地を巡演（計66ステージ）。

最後の舞台は2022年2月7日に岡本健一と共演した朗読劇『ラヴ・レターズ』。

#### 《主な受賞歴》

1965年毎日映画コンクール女優助演賞／1969年紀伊國屋演劇賞個人賞／1970年毎日映画コンクール女優助演賞／1978年第1回日本アカデミー賞優秀助演女優賞／1983年芸術祭優秀賞／1982年菊田一夫演劇賞／1990年NHK放送文化賞／2002年日本アカデミー賞優秀助演女優賞／2005年芸術祭大賞／2006年毎日芸術賞／2006年朝日舞台芸術賞／2008年読売演劇大賞優秀女優賞／2016年読売演劇大賞芸術栄誉賞

1992年に紫綬褒章、2000年に勲四等旭日小綬章を受章

#### 《主な映画出演作》

「原爆の子」(52)「ここに泉あり」(55)「あやに愛しき」(56)「証人の椅子」(65)「どですかでん」(70)「地の群れ」(70)「甦える大地」(71)「はなれ瞽女おりん」(77)「夜叉」(85)「男はつらいよ 寅次郎サラダ記念日」(88)「釣りバカ日誌」シリーズ(97～2009)「鉄道員(ぽっぽや)」(99)「ホテル」(2001)「半落ち」(04)「RAILWAYS」(10)「まほろ駅前狂騒曲」(14)「おかあさんの木」(15)「たたたら侍」(17)「瞽女 GOZE」(20)「高津川」(22)「土を喰らう十二カ月」(22)

#### 《主なテレビドラマ・声の出演》

「東芝日曜劇場」(1957～93)「ありがとう」(70)「おんなの家」シリーズ(74～93)「太陽にほえろ！」(76)「兄弟刑事」(77)「太陽にほえろ！PART2」(86)「居酒屋もへじ」(2015～17)「やすらぎの刻～道」(2019～20)など出演多数。NHK大河ドラマへは1963年の第1作「花の生涯」いらい度々出演、「いのち」(86年)、「春日局」(89)、「篤姫」(2008)の3作ではナレーションをつとめた。ナレーションでは連続テレビ小説「おしん」(83～84)「おんなは度胸」(92)「春よ、来い」(94～95)の3作、また86～95年の「極める」など。声の出演として、アニメーション映画『崖の上のポニョ』ヨシエ(2008)やジャンヌ・モロー、アン・バンクロフト、キャサリン・ヘップバーンらの映画吹き替えの他ラジオドラマの出演も多数。